

第2回 国際産学連携拠点に関する検討会 議事要旨

日時：平成26年12月8日（月）9：30～12：00

場所：経済産業省本館17階第2特別会議室

出席者：小沢委員、角山委員、原委員、小原委員、古賀委員、中村委員、山名委員、森山委員、劔田委員、松田委員、石崎委員、菅原委員代理（近藤委員代理出席）、大沼委員代理（菅野委員代理出席）、袖岡委員、戸高委員、松本委員、坂本委員、西田委員、星野委員、上田委員代理（宮本委員代理出席）、新川委員、豊島委員

議題：1. 北九州学術研究都市の現状・整備手法・効果など
2. 廃炉国際共同研究センターについて
3. 福島県浜通り地域における研究開発拠点の整備等について
4. 自由討議

議事概要：

（1）北九州学術研究都市の現状・整備手法・効果など

国際産学連携拠点整備の先進事例として、北九州学術研究都市について古賀委員より説明。

（2）廃炉国際共同研究センターについて

文科省において検討中の廃炉国際共同研究センターについて西田委員より説明。

（3）福島県浜通り地域における研究開発拠点の整備等について

福島県浜通り地域における研究開発拠点の整備等について森山委員より説明。

（4）自由討議

委員からいただいた主な意見は以下のとおり。

- ・ 福島の場合は、廃炉という福島特有の目的を達成することが求められるが、それだけでは全国から人・モノ・カネを集めるモチベーションは薄い。産業から見ても学生から見ても魅力がある拠点を作る必要がある。
- ・ 廃炉・オフサイト修復・復興の3つを混ぜていく研究拠点づくりが不可欠ではないか。
- ・ 人材育成が必要である。例えば、高専の学生が学士・修士・博士をとった上で、地元企業に就職し、そこでさらに企業を発展させていくというサイクルをいかに作っていくのかがポイント。
- ・ 大学・企業・地域を結びつけるコーディネート機能をもった運営主体が必要。
- ・ 人材を福島以外から集めるとなると、廃炉、環境回復から範囲を広げる必要があるのではないか。
- ・ 国際産学連携拠点で整備する諸機能を集約して整備するか分散させて整備するか。仮に分散させるとしてもユーザーフレンドリーな拠点づくりが不可欠。